

2022 年 6 月 20 日

学校法人三幸学園
千葉医療秘書専門学校
校長 高橋 一博 殿

学校関係者評価委員会
委員長 市川 静夫

学校関係者評価委員会実施報告

2021 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 市川 静夫 (社会医療法人社団さつき会 袖ヶ浦さつき台病院 医事課課長)
- ② 古川 哲也 (医療法人柏葉会 柏戸病院 医事課課長)
- ③ 忍足 美玲 (第 13 期卒業生)
- ④ 富永 隆幸 (飛鳥未来高等学校千葉キャンパス キャンパス長)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2022 年 5 月 15 日 (会場 千葉医療秘書専門学校 401 教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2021 年度 学校法人 三幸学園 千葉医療秘書専門学校

自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 清 洋介

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 市川 静夫

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え動ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

「相手のこうしてほしいを理解し、考え動ける人材」を人材育成方針とし、単に知識や技術を研究するに留まらず、人間性を高める教育を併せて展開することにより、真に社会に役立つ人材を輩出できると考え、教育活動を展開してきた。コロナ禍でも就職決定率、資格取得数・取得率において高い結果を残すことができ、基本となる社会人基礎力の習得においても行事・課外活動等を通して養うことができた。課題としては、今まで以上に生徒が楽しいと思える授業・学びの質の高い授業の運営をするための授業力の向上が求められる。よって次年度についても、以上の教育方針を持って教務にあたり、授業の質の向上、退学率の低減、卒業生への支援体制の構築、病院との関係性の構築、社会情勢を見て産学連携の機会も増やしていく取り組みが必要である。

② 学校関係者評価委員会コメント

古川哲也委員（医療秘書科について）

・患者対応をする仕事の為、挨拶指導は就職後すぐに病院で行っているが、在学中の継続的な指導も重要である。

・自信がないということが原因で、自主的に動くことができない学生が増えている。

市川静夫委員（診療情報管理士科について）

・大人しい学生が多い印象がある。指示されたことを実施することはできるが、報告・連絡・相談等のレベルに差が見られる。

・主体性を持って行動できることが重要であると感じる。

忍足美玲委員（医療秘書科について）

・入職後すぐにできる業務が少ない中で、挨拶、リアクションや返事をしっかりとすることが重要という専門学校での学びを意識して実施している。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

- ・保護者、生徒への学校の理念・目的・育成人材像・将来構想の浸透
- ・保護者には YouTube にて動画を配信
- ・業界の動向の把握と、それに応じた教育目標・教育育成像の活性化
- ・社会情勢を見ながら、医療事務分野での産学連携の活性化

② 今後の改善方策

- ・スタートアッププログラム、フォローコンテンツを通し、継続的に教育理念・人材育成像の浸透を積み重ねて行う。
- ・病院訪問を積極的に行うことで現場の意見を取り入れ、業界のニーズに合わせた教育目標の設定を行う。
- ・収集した情報を多面的に評価し、教育課程の編成に活用していく仕組みの構築
- ・研究発表等の機会を通して、産学連携を推進する。

③ 特記事項

- ・教育理念、目標、人材育成像を体系化し全教職員への浸透を図っている。
- ・三幸学園の原点「あきらめない教育」を小冊子化し配布。全教職員に浸透をはかり、研修を実施
- ・学科に関わる授業担当教員を招集し、学科会の実施

④ 学校関係者評価委員会コメント

忍足美玲委員（医療秘書科について）

- ・社会人として必要となる能力等は授業や生活面を通して身についたと感じている。

古川哲也委員（医療秘書科・診療情報管理士科について）

- ・他校と比較し離職率が低く、就職後を見据えた指導を行っているように見受けられる。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

- ・グループウェアや IT を活用した情報共有等による業務の効率化をさらに推し進める。
- ・業務の効率化をさらに推し進め、教職員のワークライフバランスの浸透を図る。
- ・全職員の情報リテラシーの向上及び、ITスキルの向上

② 今後の改善方策

- ・教職員伝達ツールの定期的利用
- ・全教職員がスムーズに情報共有できるよう、教科チーフを主軸とした連携体制の強化
- ・残業時間削減への取り組みを行う。

③ 特記事項

- ・年に3回の全教職員会議を実施し、運営方針の浸透・情報共有を行っている。
- ・校内へ Wi-Fi の設置
- ・学生向け情報発信ツール「Sanko Gate」の活用
- ・学園全体で残業時間の軽減に取り組んでいる。
- ・WEB出席簿の導入

④ 学校関係者評価委員会コメント

市川静夫委員（診療情報管理士科について）

- ・医療機関への ICT の導入はまだ進んでおらず、これからの課題となっている。
- ・高齢の方もいるため、完全な機械化が難しい現状がある。

古川哲也委員（医療秘書科・診療情報管理士科について）

- ・残業対策への取り組みとして、業務の効率化が必須である。
- ・業務効率化のためパソコンでの業務は必須だが、スマートフォンの普及によりパソコンを使用する場面の減少しているため、パソコン操作ができない生徒が増えてきている。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

- ・キャリア教育を推し進めるために、業界・社会のニーズに沿ったカリキュラム・教育方法を開発する。
- ・授業評価、実習先評価の精度向上と教育への反映

② 今後の改善方策

- ・提携企業との連携を強化し授業科目の解説や授業方法の改善・工夫を行う。
- ・授業評価における評価項目の見直しを行い、教員の質を向上させる。
- ・現場に足を運ぶ機会を増やし、直接話を伺う。
- ・実践形式の授業展開を増やし、学びをアウトプットする行事を開催する。

③ 特記事項

- ・教員指導力向上のために研修を実施している。
- ・教育開発部の指導のもと、主体的な生徒の育成、教員指導力の向上を目的に統一した研修を行っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

忍足美玲委員(医療秘書科について)

- ・PC(Word、Excel)は、基本的操作を身に着け幅広く対応できることが必要である。
- ・略語、医療用語に対応できることの重要性を感じた。
- ・電話対応については実務に活かせるような授業があると、より即戦力になれると感じた。

市川静夫委員(医療秘書科・診療情報管理士科について)

- ・電話対応に抵抗のある学生が多いように感じる。
- ・言葉遣いなどは学生のうちから徹底して指導する必要がある。

古川哲也委員(医療秘書科について)

- ・授業と現場では対応方法が異なるので、難しい部分もあるが率先して行動できることは必要である。
- ・場馴れしていくことが必要となるため、実戦形式の授業は重要となる。
- ・パソコンは1年次だけではなく2年次も継続で授業をすることで対応を検討してみてはどうか。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・就職研修途中辞退者の低減
- ・卒業生への社会的活躍の情報収集と教育活動への反映
- ・卒業生のセカンドキャリアサポートが不十分

② 今後の改善方策

- ・社会人になることへの動機づけを強化
- ・資格取得へ取り組む姿勢の動機づけ強化
- ・教科担当教員同士の連携強化
- ・定期的なクラス報告会を実施し、情報共有を行うことで退学防止へ繋げる。
- ・同窓会サイト SANKO LINK の活用
- ・医療機関への訪問の際に卒業生とのコミュニケーションを強化

③ 特記事項

- ・就職、実習実績のある病院へ訪問し、卒業生の状況をヒアリングして在校生の育成に生かす。
- ・卒業生から体験談や仕事の講話をしてもらい、就職後のイメージを膨らませる。

④ 学校関係者評価委員会コメント

市川静夫委員（医療秘書科・診療情報管理士科について）

- ・卒業生と教員の関わりは安心感にも繋がるので、企業訪問は今後も継続させてほしい。

富永隆幸委員（医療秘書科・診療情報管理士科について）

- ・高校側は専門学校卒業後の進路については連携を取れると安心である。

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・卒業生との連携強化
- ・保護者との連携強化
- ・多様性のある学生への支援強化

② 今後の改善方策

- ・同窓会サイト SANKO LINK の活用
- ・定期的な保護者への連絡を実施、WEB 上での保護者説明会の実施
- ・チーム担任制にし、生徒への相談窓口を広げる。

③ 特記事項

- ・新入生の保護者へ挨拶や情報共有のための電話掛けを実施
- ・カウンセリングルームの利用が適宜行われている。
- ・千葉県専修学校各種学校協会主催「千葉県仕事の学び場」事業（専修学校・高等学校連携等職業教育推進プラン）への参画

④ 学校関係者評価委員会コメント

富永隆幸委員（医療秘書科・診療情報管理士科について）

- ・高校でも担任から挨拶の電話や保護者会などで連携を強化している。
- ・保護者の理解を得ることにより、円滑なサポートができるので保護者との連携は重要である。
- ・卒業生と在校生の交流の場を設けることで、教員・卒業生・在校生の良い関係性が築けるのではないかな。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

・更に質の高い教育をめざし、教育環境・体制を整備する。

② 今後の改善方策

・メディカルルームの施設を活用した授業をより多く実施
・避難訓練の実施

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

市川静夫委員(診療情報管理士科について)

・実習については、病院側の体制もあるので手薄になってしまう場合もある。
・コロナ禍ではあるが可能な限り実習生を受け入れ実践を積ませることが重要であると感じる。

古川哲也委員(医療秘書科について)

・実習生を受け入れることにより、職員の成長にも繋がるため今後も受け入れをしていきたい。
・実習により学生と社会人との違いを実感できるので、実習は非常に貴重な経験になるのではないかと。

(7)学生の入入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

・学生募集は適切に行っているが、職業人物像・職業意識まで正確に伝えられていない。

② 今後の改善方策

- ・広報担当部署との連携強化
- ・広報活動の際の業界説明や、就職後の働き方の説明を強化
- ・教員の高校訪問の実施

③ 特記事項

- ・学納金は、教育研究費、人件費、施設管理費などを算出基盤としている。
- ・学納金の決定に際しては、他校との学費水準も把握した上で決定をしている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

富永隆幸委員(医療秘書科・診療情報管理士科について)

- ・看護分野に興味を持った生徒が、最終的に医療事務を選択する事例も多いように感じる。
- ・進路決定時期が近づいてくると、比較的将来の安定性などを考慮し、医療分野に興味を持つ生徒もいる。

古川哲也委員(医療秘書科・診療情報管理士科について)

- ・医療事務の人気は低下傾向にあるように感じるので、安定して長期的に働けるなどの魅力の打ち出しが必要なのではないか。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

現在、第2次中期計画(2018年度～2022年度)の対象期間中であるが、当該計画を着実に実行すると共に今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・更なる法令遵守の推進

② 今後の改善方策

・会議や掲示物等を通じて、すべての職員に法令遵守に対する啓蒙を積極的に実施していく。

③ 特記事項

・2014 年度自己評価結果より公開を開始

④ 学校関係者評価委員会コメント

市川静夫委員（医療秘書科・診療情報管理士科について）

・個人情報の取り扱いは医療機関において非常に重要な部分であり、学生のうちから対策について意識付けをしておくことは大切である。

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

- ・コロナ禍における社会貢献の方法の模索
- ・地域に対し、施設を提供するなどの検討

② 今後の改善方策

- ・社会の変化に応じたボランティア活動の検討を進めていく。
- ・提携企業との連携を強化

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

市川静夫委員（医療秘書科・診療情報管理士科について）

- ・病院のボランティアの活動を通して地域貢献ができるのではないかと。

古川哲也委員（医療秘書科・診療情報管理士科について）

- ・集団接種会場などでのボランティア等もコロナ禍では必要とされる可能性が高い。

(11)国際交流

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	2
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	2
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	2
学内で適切な体制が整備されているか	2

① 課題

- ・留学生に対して、積極的な募集活動を行えていない。
- ・卒業後の就職先の確保が困難

② 今後の改善方策

- ・留学生向けのホームページ上のコンテンツの強化
- ・留学生を入学まで繋げる。

③ 特記事項

- ・2014 年度から「留学生学費減免入学」制度を実施している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

「相手のこうしてほしいを理解し、考え動ける人材」を人材育成方針とし、単に知識や技術を研究するだけではなく人間性を高める教育を併せて展開することを教育目標とし、1年間取り組んできた。現場で活躍するための基礎力を資格・検定取得をベースに各学科で重点目標として掲げ、多くの科目で昨年度を上回る取得率を上げることができた。最終的な就職決定率についても、全員が内定をいただくことができた。心豊かな人間性を育むため、授業だけではなくその他の学校生活を通して挨拶、マナーの指導を行い、行事などを通して自主性・主体性を引き出す機会を設けている。今後の課題として、人材育成像や職業人像について早い段階から生徒の理解を深め、高いモチベーションを維持する仕組みづくりの整備を行う。また、新型コロナウイルス感染症が落ち着き次第、企業でのボランティア活動を積極的に行うため、そちらに向けた産学連携・企業訪問の充実が挙げられる。そして、授業の質向上、検定取得率の向上を目指し、教科会の実施や教員間の意識統一を図り、生徒の満足向上に取り組む必要がある。